

2018 年度立命館大学経済学部経済学史定期試験問題・正解・解説

ボールペンでは読み取りません。必ず鉛筆(シャープペンシル)でマークしてください。丸数字は解答番号です。規定の数を超えた数の選択肢番号をマークした場合は、機械読み取りの都合上、採点されないものと考えてください。

(5 点×20)

I

① 下記の人名群のうち、セイ法則(セイ恒等式またはセイ方程式)を仮定することと整合する体系的議論をした論者たちを選択し、その番号をすべて(三つ)マークせよ。

正解：(1) (3) (6)

解説：いずれも、収入通りの支出を前提した議論をしているので、セイ法則と同値になる。

② 下記の人名群のうち、セイ法則(セイ恒等式またはセイ方程式)を仮定することと矛盾する体系的議論をした論者たちを選択し、その番号をすべて(四つ)マークせよ。

正解：(2) (3) (4) (5)

解説：いずれも、人が貨幣を積極的に持とうとすることを考慮にいれるので、総需要が総供給を下回る可能性を認める。マルクスは、再生産表式論など多くの箇所、収入通りの支出を前提して、セイ法則と同値になるモデルで議論しているが、積極的な貨幣保有動機によってセイ法則が破れて全般的な過剰生産恐慌が起こる原理も強調している。

[人名群]

(1) リカード (2) マルサス (3) マルクス (4) ケインズ (5) 重商主義者  
(6) ケインズ以前の新古典派

II

③ 下記の語句群のうち、セイ法則(セイ恒等式またはセイ方程式)を仮定するこ

とと同値になる議論を選択し、その番号をすべて(二つ)マークせよ。

正解：(6)(7)

④ 下記の語句群のうち、セイ法則(セイ恒等式またはセイ方程式)を仮定することと必ず矛盾する議論を選択し、その番号をすべて(三つ)マークせよ。

正解：(2)(5)(8)

[語句群] (政府と海外部門は捨象する)

(1) 諸商品の超過需要の和は恒等的にゼロとなる。

これはワルラス法則。セイ法則はこの特殊ケースで、ワルラス法則が成り立ってセイ法則が成り立たないケースもある。昨年度も混同した解答が多く、間違えなくなるまで毎年出題すると公表して、講義中にもしつこくそう述べたのに、やっぱり 48.6%もセイ法則と混同している。ほとんど間違えなくなるまでこれからも毎年定期試験に出題します。

(2) 流動性のわなが起こり得る。

貨幣の需要超過が起こるので、すべての財の供給超過が起こる。

(3) それぞれの商品の供給はそれ自らの需要を生み出す。

こんなバカな命題を主張する者はいない。セイ法則は、財の総供給が総需要を生み出すというもの。昨年ほとんどの者がこれをセイ法則と回答したので、間違える人がいなくなるまで毎年出題すると言ったら、今年は 20.5%にまで減った。もう少し少なくなっただけほしいところ。

(4) 供給が需要を超過した財や労働の価格はスムーズに下落し、需要が供給を超過した財や労働の価格はスムーズに上昇する。

この条件のもとでもセイ法則が成り立たないケースはあり得る。その場合、財や労働が全般的に供給超過するとすべての価格や賃金が下落し続ける。51.4%も人がセイ法則と同値であると誤解していた。これも次回も出題する可能性大。

(5) 貨幣の投機的需要がある。

貨幣の需要超過が起こり得るので、すべての財の供給超過が起こり得る。

(6) 貨幣供給量が増えても、同率の物価上昇がもたらされるだけで、実体経済への影響はない。

貨幣数量説。財の生産や相対価格が実物の一般均衡で貨幣と無関係に決まるので、貨幣は絶対価格水準だけを定める。

(7) 財や労働が全体として超過供給であるかぎり利子率がスムーズに下落する。  
財・労働・債券でワルラス法則が成り立つとする「セイ方程式」の特徴。この場合債券が需要超過なので利子率が下落する。

(8) 経済全体で貯蓄が投資を超過すると、国民所得が下落して、投資に等しくなるまで貯蓄が減る。

「セイ方程式」の下では、貯蓄が投資を超過すると、債券が需要超過するので利子率が下落して、貯蓄に等しくなるまで投資が増える。

(9) 働く意思があるのに失業する人がいる。

セイ法則が成り立たず、総需要不足による非自発的失業が出る場合はもちろんそう。しかし、セイ法則が成り立っていても、人手が余った部門と足りない部門の間で労働移動が困難で失業しているケースはあり得る。

### 卅 III (大問番号間違えました)

⑤ 下記の語句群のうち、マルクスが、資本主義経済で一般に成り立つと考えていた価格を選択し、その番号をすべて(二つ)マークせよ。

正解：(1)(2)

解説：需要が多い部門では価格が高くなって利潤率が高く、需要が少ない部門では価格が低くなって利潤率が低くなるので、利潤率が低い部門から高い部門への資本移動が起こる。すると需要の多い部門では供給が増えて価格が下がり、需要の少ない部門では供給が減って価格が上がる。長期平均的には、どこの部門でも利潤率が等しくなる「生産価格」が成り立つ。とする。

⑥ 下記の語句群のうち、ジェボンズやメンガーが、資本主義経済で一般に成り立つと考えていた価格を選択し、その番号をすべて(二つ)マークせよ。

正解：(2)(6)

⑦ 下記の語句群のうち、マーシャルが、資本主義経済で一般に成り立つと考えていた価格を選択し、その番号をすべて(三つ)マークせよ。

正解：(1)(2)(6)

[語句群]

(1) 単位生産費に、どの部門でも利潤率が均等になるような利潤を足して決まる価格。

リカードの「自然価格」、マルクスの「生産価格」。マーシャルは、長期ではこれらの古典派の価格論があてはまるとみなした。

(2) 需要が供給を上回れば上昇し、需要が供給を下回れば下落する価格。

スミスやリカードやマルクスも、短期的な市場価格の運動として認めている。

(3) 企業が単位生産費に正常なマークアップを足して設定する価格。

ポスト・ケインズ派などで想定される価格。市場が独占的・寡占的な時代に見られる。リカードの「自然価格」やマルクスの「生産価格」とは別物。

(4) 投下労働価値に比例する価格。

資本主義経済のもとでは、部門ごとに資本の有機的構成が違えば、価格は投下労働価値に比例しないとマルクスは認識していた(リカードも同様)。昨年度もこれをリカードやマルクスの価格と誤認した回答が多く、間違えなくなるまで毎年出すと言ったのにやっぱり今年も 54.7%も間違えて選んでいる。

(5) その商品から得られる最大限の効用に比例する価格。

限界効用という言葉を、「最大限の効用」と誤解する人向けのひっかけ。ひっかかった人は 26.9%。まだちょっと多いかな。

(6) 消費者各自において、各財に費やした支出の最後の 1 円の満足度が等しくなる価格。

加重限界効用均等ということ。

⑧ 次の文章のうち、正しいものを一つ選び、その番号をマークせよ。

(1) スミスは、輸出が増加して貿易黒字が増えるという理由で自由貿易を提唱した。

貿易黒字を増やすことを目的にした重商主義者を批判したのがスミス。

(2) 新古典派の主要論者は、社会主義に反対して、資本主義経済体制の優位性を主張してきた。

ワルラス、ウィクセル、ランゲといった論者が社会主義者だった。マーシャルも資本主義が永続するとはみなさなかった。

(3) スミスは、国際競争に勝つために賃金は抑えるべきだと主張した。

スミスはこのような主張を批判した。

(4) ケインズは有効需要の拡大のために銀行業界を活性化させる産業政策を提唱した。

ケインズは有効需要の拡大のために利子率を下げることを主張したが、そうすると銀行業界の利益には反するだろう。

(5) リカードは、他国で生産するよりも労働がたくさんかかる財でも、自国で生産することが有利になる場合があることを主張した。

これが正解。比較優位財には、他国で生産するよりも労働がたくさんかかる財があり得る。正答率 51.7%。比較生産費説は正しく答えられるようになるまで毎年出すと言った。昨年よりましになったが、まだ十分でないので、来年度も出題するつもりである。

(6) ケインズは、失業が生じるのは貨幣賃金率が下方硬直的であるせいだと考えた。

これは間違い。貨幣賃金率が下方硬直的な方がかえって望ましいと考えた。